

キャリア技研

ドローンで森林管理

愛知や岐阜で連携構想

3次元CAD設計のキャリア技研(本社名古屋市中村区名駅、富田茂社長、電話052・627・0495)は、森林を観測し火災や土石流などの兆候を事前に把握するドローン(小型無人機)システムの開発に乗り出した。西日本豪雨や台風21号など自然災害の多発を受け、ニーズが高まっていると判断した。愛知や岐阜県の国有林や森林管理組合保有林と連携しての活用を目指し、このほど具体的な交渉を始めた。

(水谷英志)

赤外線監視技術を応用

同社は、ドローンで野生動物の動向を把握し、管理・駆除する「害獣駆除ロボット(SARRA)」を開発。ドローンに備え付けた赤外線高感度カメラとIOT(モノのインターネット)を駆使した情報通信技術(ICT)活用したもので、仕掛けたわなに害獣がかかったかどうかなどがネットで確認できる。東海4県のほか、北海道で活用事例がある。



富田茂社長

新システムはその技術を応用、機能をグレードアップさせる。専属スタッフ10人体制で開発を始めた。ドローンの飛行や電波の取り扱いでこれまでと同様、国土交通省中部地方整備局や愛知県、岐阜県などの周辺自治体と協議し、実用化を進める考え。

豪雨、台風の発生が相次ぎ、これまで耐えてきた地盤でも崩落する危険性がある。富田社長は「山の変化を定点的に捉えることで、山火事や土石流の発生を素早く把握する。適切な対策につなげたい」と意欲を示している。